

経営比較分析表（令和5年度決算）

和歌山県那智勝浦町 温泉病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	7	-	ド透訓	救
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
13,778	9,261	第2種該当	-	10：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	120
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
119	-	119

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
[] 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の関係・ネットワークを基に)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、新宮保健医療圏の拠点病院である新宮市立医療センターの連携病院として、救急医療を提供できる診療体制を維持している。特に、急性期以降のステージを受け持つリハビリテーション拠点病院である。
また、県の災害支援病院に指定されており、災害拠点病院を支援する機能を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

コロナによる制限が緩和され、病床利用率は改善したものの、費用の増により経常収支比率・医業収支比率は悪化し、経常収支は赤字計上となった。
費用面では、職員給与費対医業収益比率が給与改定等の影響により悪化した一方で、年々悪化していた材料費対医業収支比率は改善に転じた。

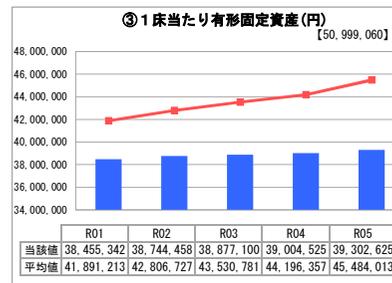
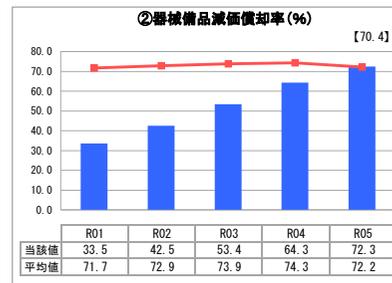
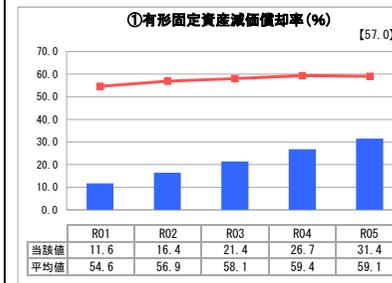
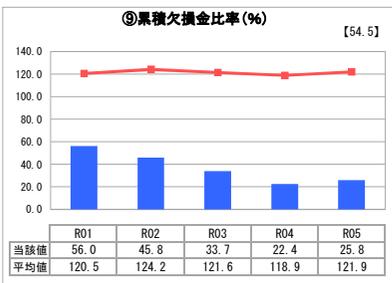
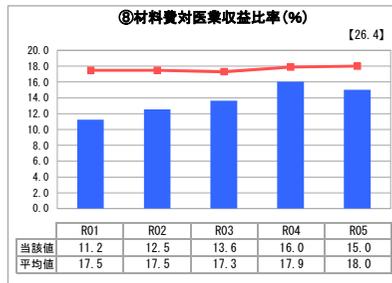
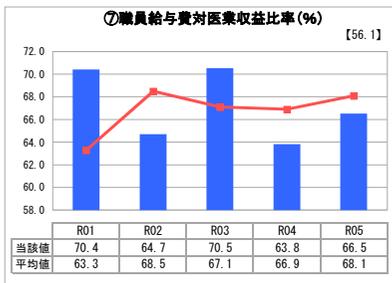
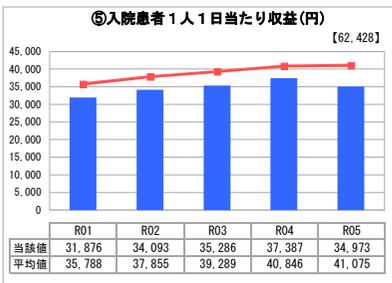
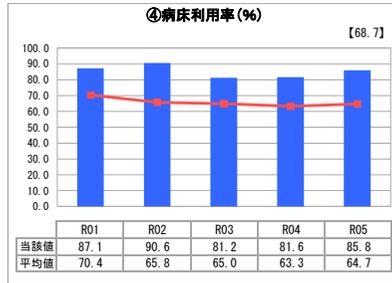
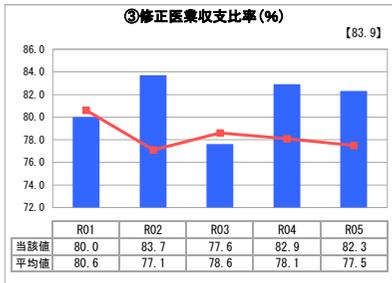
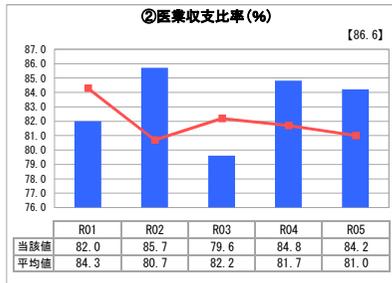
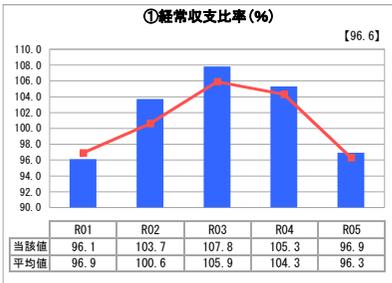
2. 老朽化の状況について

新病院を開設した平成30年度を機に、減価償却に係る各指標は改善し、以降上昇に転じている。特に医療機器については新病院移転後6年が経過、耐用年数を迎える機器が多く高い償却率となっている。

全体総括

コロナが5類感染症に移行したものの、院内感染発生時等の状況は依然と変わらず、病床利用率も伸び悩んでおり、入院収益回復の鈍化につながっている。
また、医業収益の要である常勤医師の確保は、最重要課題であるため、和歌山県立医科大学等との連携をさらに深め、定着化を目指す。
大型医療機器については、今後数年間で更新のピークを迎えるが、町の財政支援を仰ぎつつ、適切に更新を行い、医療提供体制の維持・充実に努める。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。